



10月

山、燃えるとき（涸沢）

撮影データ

撮影時期	10月上旬
カメラ型	ペンタックス645N II
レンズ	F A45—85mm
フィルム	デジタルカメラ
露出	1/10秒・F 32



（第1土曜日に掲載）

10月の空がより青く高くなり、その深さを実感する時、山は紅葉で燃えていきます。日本の山の紅葉で最も美しいと言われている涸沢カール。厳しい高山の紅葉は気象条件に影響されやすく、台風集中豪雨、酷暑、寡雨、日照不足、急激な寒気団による霜などで鮮やかさが半減してしまいます。10月初め、仲間たちと期

待に胸躍らせながら、通常1日の上高地から涸沢の登山コースを、途中の横尾で1泊。登山道沿いの四季折々の美しさは別格で、豊かな自然を堪能し、カメラに収めながら、ゆっくりと涸沢を訪れました。

カールは氷河の浸食作用によって作り上げられたお椀状の地形。険しい穂高の山々に囲まれた涸沢カールは、赤、黄、緑、そして雲による光と影の演出で、まさに錦繡（きんしゅう）の様相。その美しさは様々に変化します。まずは赤く燃えるナナカマドを撮影しました。

ヨーロッパアルプスを彷彿とさせる美しい穂高連峰。いつまで見ても見飽きることはありません。（日本山岳写真協会東海支部・舟橋恵子）



初秋の涸沢（北アルプス・涸沢Sガレ付近から撮影）

